

3 地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちに向けて

■地球環境

温暖化

計画目標 ・ 二酸化炭素等の排出が抑制されていること

現 状

■指標：二酸化炭素等の排出量の削減割合

基準年度との対比では、温室効果ガス総排出量は、2007年度は8.4%の減少、2008年度は13.9%の減少となりました。ガス別の比較では、メタン、一酸化二窒素、パーフルオロカーボン類の排出量は、基準年度と比べて増加し、二酸化炭素、ハイドロフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄については減少しています。

市内の温室効果ガス総排出量と基準年対比

	温室効果ガス排出量(万トンCO ₂)			基準年度との比較(%)		
	基準年度	2007年度 (確定値)	2008年度 (速報値)	2007年度 (確定値)	2008年度 (速報値)	
温室効果ガス総排出量	2,922	2,676	2,517	-8.4%	-13.9%	
内 訳	二酸化炭素	2,671	2,615	2,464	-2.1%	-7.7%
	メタン	1.3	2.0	1.9	52.8%	47.6%
	一酸化二窒素	7.8	9.9	10.2	26.8%	31.2%
	HFCs	25.5	8.0	8.8	-68.9%	-65.6%
	PFCs	16.7	37.0	29.1	122.1%	74.5%
	六ふっ化硫黄	200.4	4.4	3.1	-97.8%	-98.5%

注：市内の2009年度（速報値）及び2008年度（確定値）は算定し次第、ホームページ等で公表いたします。

また、2007年度から市内4地点（池上自動車排出ガス測定局、大師・中原・多摩一般環境大気測定局）で、毎月主な代替フロン（HFC、HCFC）の環境濃度の測定を開始しました。2010年度における4地点の平均濃度は HFC-134a が 0.13ppb、HCFC-22 が 0.45ppb、HCFC-142b が 0.029ppb、HCFC-141b が 0.052ppb となっています。

オゾン層破壊

計画目標 ・ オゾン層破壊の原因となる物質の排出が抑制されていること

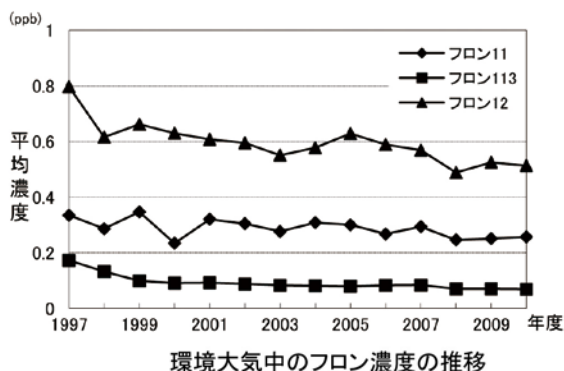
現 状

■指標：特定フロンの環境濃度

市内4地点（池上自動車排出ガス測定局、大師・中原・多摩一般環境大気測定局）で、毎月主な特定フロン（CFC）の環境濃度を測定しています。

2010年度における4地点の平均濃度は、フロン-11が0.26ppb、フロン-12が0.51ppb、フロン-113が0.069ppbとなっています。

これらの特定フロンはすでに生産されていませんが、様々な分野で使用されています。近年、ほぼ横ばいで推移しており、局地的汚染を受けていないと考えられる北海道の観測地点（環境省調査）と比較しても差異はみられませんでした。



ppb
(巻末用語索引参照)

オゾン層（破壊）
地球を取り巻く厚さ約20kmのオゾンを多く含む層。生物に有害な紫外線の多くは、成層圏のオゾン層で遮っている。近年、南極地域における成層圏のオゾン層が著しく少なくなる「オゾンホール」が毎年発生しており、世界的にも低緯度地域以外では成層圏のオゾン量が減少する傾向にある。オゾン層が破壊されると、地上に達する紫外線の量が増え、皮膚がんの増加や生態系への影響が懸念される。

特定フロン
(巻末用語索引参照)

酸性雨

計画目標 ・ 酸性雨の原因となる物質が抑制されていること

現 状

■指標：窒素酸化物、硫黄酸化物の総排出量（2000年現在の排出量より減らすことを目指す）

窒素酸化物：市内の工場・事業場からの排出総量は、9,348トンで
2000年排出量（10,682トン）と比べると約12%減少しました。

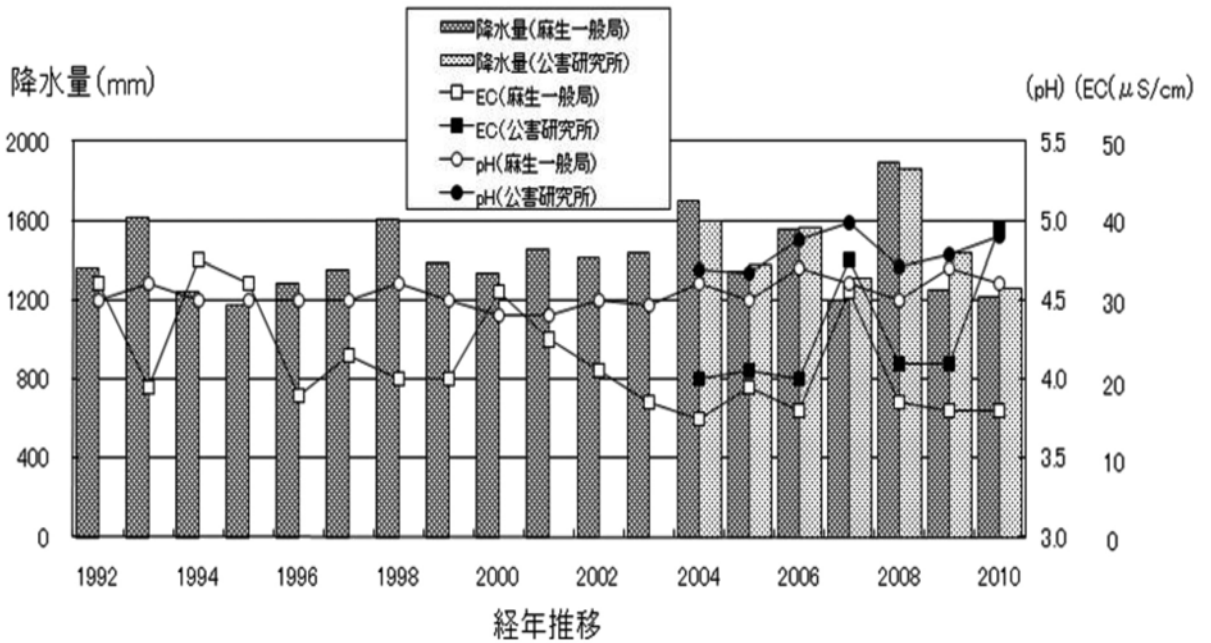
硫黄酸化物：市内の工場・事業場からの排出総量は、825トンで
2000年排出量（1,431トン）と比べると約42%減少しました。

市内工場・事業場からの窒素酸化物、硫黄酸化物の排出量

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
窒素酸化物(トン/年)	10,708	10,883	10,337	9,329	9,199	9,739	9,210	9,591	9,348
硫黄酸化物(トン/年)	1,135	1,076	1,062	826	785	851	754	800	825

市内の酸性雨の状況を把握するために、1991年8月から麻生一般局に、2003年12月から公害研究所（川崎区田島）に降雨雪自動採取測装置を設置し、降水のpH等の測定を行っています。

2010年度のpH及び導電率（EC）の年平均値は、それぞれ麻生一般局で4.6及び16 μ S/cm、公害研究所で4.9及び39 μ S/cmでした。



森 林

計画目標 ・ 持続可能な森林資源の保全に貢献していること

現 状

■指標：公共工事における熱帯材使用率（2000年現在の使用率より減らすことを目指す）

公共工事における熱帯材の使用状況について、まちづくり局発注工事においては、熱帯材の使用を極力抑制するよう努めています。

主な施策の概要

具体的施策名	2010（平成22）年度実績	2011（平成23）年度計画等
--------	----------------	-----------------

Ⅲ-1-1 地球温暖化の防止

Ⅲ-1-1-1 ライフスタイル・産業活動の改善

「温暖化物質の排出抑制に関する指針」に基づく事業所への指導の実施 [環：企画指導課]	□指導件数：28件(-3件)	□継続実施
市民、事業者、学校、行政による地球環境保全行動計画の推進 [環：地球環境推進室]	<input type="checkbox"/> 取り組み状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市民部会 ・地球温暖化に関する出前教室を実施 ・地球温暖化対策地域推進計画改定及び川崎市地球温暖化防止活動推進センター指定に関する事業者部会との意見交換会の実施 [グリーンコンシューマー] ・法政通り商店街と協力して「1店1エコ運動」を展開 ・川崎市をエコ・ショッピングタウンに向けた活動 ・川崎市内のグリーンコンシューマーに取組む市民・商店の情報発信の仕組みとしてホームページを充実 [省エネグループ] ・「夏休みエコライフ・チャレンジ」を市立小学校にアンケートをとり、希望した学校の5年生全員に配布し、取組を推進 [ソーラーチーム] ・各種地域イベントにおいて自然エネルギーの普及啓発活動を実施 ・市民共同おひさまプロジェクト2号機の設置、関連イベントの実施 [交通環境グループ] ・かわさきエコドライブ推進協議会に参加し「かわさきエコドライブ宣言」を推進	<input type="checkbox"/> 予定 <input checked="" type="checkbox"/> 市民部会 ・川崎市地球温暖化防止活動推進センターとしての発展的活動、同推進員との協働による取組の展開 [グリーンコンシューマー] ・「1店1エコ運動」を展開 ・川崎市内のグリーンコンシューマーに取組む市民・商店の情報発信の仕組みの充実 [省エネグループ] ・「夏休みエコライフ・チャレンジ」の取組の推進 [ソーラーチーム] ・市民共同おひさまプロジェクト関連イベントの実施、プロジェクトの展開 ・自然エネルギーの普及啓発活動として「太陽と遊ぼう！」を開催 [交通環境グループ] ・かわさきエコドライブ推進協議会に参加し「かわさきエコドライブ宣言」を推進
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業者部会 ・地球温暖化対策地域推進計画改定及び川崎市地球温暖化防止活動推進センター指定に関する市民部会との意見交換会の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 事業者部会 ・地球温暖化防止活動推進センターの設置に係る事業者部会の役割の検討
	<input checked="" type="checkbox"/> 学校部会 ・小学校への出前教室参加 温暖化、エコクッキング講座等 ・夏休みエコライフチャレンジへの協働 ・子ども環境サミットへの協働	<input checked="" type="checkbox"/> 学校部会 ・小学校への出前教室の参加 温暖化、エコクッキング講座等 ・夏休みエコライフチャレンジへの協働 ・子ども環境サミットへの協働

具体的施策名	2010（平成 22）年度実績	2011（平成 23）年度計画等
	○行政部会 ・エコオフィス計画の実施 ・平成 22 年度グリーン購入推進方針の推進 ・平成 23 年度グリーン購入推進方針の策定 ・平成 22 年度環境配慮契約推進方針の推進 ・平成 23 年度環境配慮契約推進方針の策定 ・自転車利用システムの推進 年間延べ利用台数：2,929 台(16 台) ・公共施設における ESCO の管理及び効果の検証 ・電力のグリーン購入の実施	○行政部会 ・市役所の率先取組の実施 ・平成 23 年度グリーン購入推進方針の推進 ・平成 24 年度グリーン購入推進方針の策定 ・平成 23 年度環境配慮推進方針の推進 ・平成 24 年度環境配慮推進方針の策定 ・自転車利用システムの推進 ・公共施設における ESCO 管理及び効果の検証 ・電力のグリーン購入の実施
	○川崎発！ストップ温暖化展の開催 ○夏・冬の温暖化対策キャンペーンの実施	○地球温暖化対策啓発イベントの開催 ○夏・冬の温暖化対策キャンペーンの実施
市役所におけるエコオフィス計画に基づく取組の推進 [環：地球環境推進室]	「第 4 章 環境配慮指針の実施状況」の中の「市の環境配慮指針取組状況」参照	<input type="checkbox"/> 継続実施
フォーラム等開催による温暖化防止に向けた意識啓発 [環：環境調整課／地球環境推進室]	○環境省作成のポスター、各種パンフ等を配布 ○九都県市共同で地球温暖化防止キャンペーンの実施	<input type="checkbox"/> 継続実施
建築物環境配慮制度の推進 [環：環境評価室]	届出件数：52 件	<input type="checkbox"/> 継続実施

Ⅲ-1-1-2 自動車交通対策の推進

自動車交通対策の推進	【Ⅲ-1-1 施策参照】	【Ⅲ-1-1 施策参照】
------------	--------------	--------------

Ⅲ-1-1-3 緑の保全及び緑化の推進

北部の多摩丘陵をはじめとするまとまりのある緑の保全	【Ⅲ-2-1、Ⅲ-2-2 施策参照】	【Ⅲ-2-1、Ⅲ-2-2 施策参照】
市街地における公園・緑地の整備及び屋上緑化・壁面緑化等による新たな緑の創出	【Ⅲ-2-3 施策参照】	【Ⅲ-2-3 施策参照】

Ⅲ-1-1-4 廃棄物対策の推進

廃棄物の発生抑制の推進	【Ⅲ-2-1 施策参照】	【Ⅲ-2-1 施策参照】
廃棄物の再利用及び再生利用の推進	【Ⅲ-2-2 施策参照】	【Ⅲ-2-2 施策参照】
廃棄物の適正処理の推進	【Ⅲ-2-4 施策参照】	【Ⅲ-2-4 施策参照】

Ⅲ-1-1-5 エネルギー対策の推進

省エネルギー対策の推進	【Ⅲ-3-1 施策参照】	【Ⅲ-3-1 施策参照】
自然エネルギー・未利用エネルギーの利用の推進	【Ⅲ-3-2 施策参照】	【Ⅲ-3-2 施策参照】

具体的施策名	2010（平成22）年度実績	2011（平成23）年度計画等
--------	----------------	-----------------

Ⅲ-1-1-6 調査研究及び広域的取組の推進

定期的な二酸化炭素等の排出量の実態把握の実施 [環：地球環境推進室]	<input type="checkbox"/> 調査実施状況 <input type="checkbox"/> 二酸化炭素等排出量 2007年度確定値 二酸化炭素：2,615万トン CO ₂ メタン：2.0万トン CO ₂ 一酸化二窒素：9.9万トン CO ₂ HFC _S ：8.0万トン CO ₂ PFC _S ：37.0万トン CO ₂ 六フッ化硫黄：4.4万トン CO ₂ 2008年度速報値 二酸化炭素：2,464万トン CO ₂ メタン：1.9万トン CO ₂ 一酸化二窒素：10.2万トン CO ₂ HFC _S ：8.8万トン CO ₂ PFC _S ：29.1万トン CO ₂ 六フッ化硫黄：3.1万トン CO ₂	2009年度（速報値）は算定し次第ホームページ等で公表
代替フロンガスの環境濃度測定 [環：環境対策課/公害研究所]	<input type="checkbox"/> 代替フロン濃度（前年度差） ・HFC-134a：0.13ppb(-0.04ppb) ・HCFC-22：0.45ppb(±0) ・HCFC-142b：0.029ppb(-0.001ppb) ・HCFC-141b：0.052ppb(-0.005ppb)	市内4地点で継続して測定
国、近隣自治体との連携による温暖化防止の広域的対策の推進 [環：環境調整課/地球環境推進室]	<input type="checkbox"/> 対策実施状況 九都県市での共同取組 ・地球温暖化防止一斉行動 ・地球温暖化防止キャンペーン	継続実施

Ⅲ-1-2 オゾン層の保護

Ⅲ-1-2-1 オゾン層の保護

自動車リサイクル法に基づく、フロンの適正な回収処理に係る指導の実施 [環：廃棄物指導課]	<input type="checkbox"/> 登録事業場数（2010年度末）： ・引取業者：198業者 ・回収業者：32事業所 <input type="checkbox"/> 実地調査・指導等件数 ・引取業者：137業者 ・回収業者：25事業所	継続実施
特定フロンの環境濃度の測定 [環：環境対策課/公害研究所]	<input type="checkbox"/> 特定フロン濃度（前年度差） ・フロン11：0.26ppb(+0.01ppb) ・フロン12：0.51ppb(-0.02ppb) ・フロン113：0.069ppb(-0.002ppb)	市内4地点で継続して測定
オゾン層保護に関する意識啓発 [環：地球環境推進室]	オゾン層保護に関するパンフレットの配布	継続実施

Ⅲ-1-3 酸性雨の防止

Ⅲ-1-3-1 酸性雨の防止

工場等の発生源対策の強化と自動車公害防止対策等の推進	【I-1-1、I-I-2 施策参照】	【I-1-1、I-I-2 施策参照】
関係機関との連携による酸性雨に関する雨水の調査の実施 [環：環境対策課/公害研究所/公害監視センター]	<input type="checkbox"/> 調査状況 ・麻生環境大気測定局及び公害研究所で酸性雨モニタリング調査（通年）	継続実施

Ⅲ-1-4 森林の保全

Ⅲ-1-4-1 森林の保全

熱帯材の型枠、下地材、内装材の使用抑制 [ま：庶務課]	<input type="checkbox"/> 使用量 ・まちづくり局発注工事においては、熱帯材の使用を極力抑制するよう努めている。	<input type="checkbox"/> 引き続き実施
熱帯材使用の抑制に関する普及啓発 [ま：庶務課]	<input type="checkbox"/> 使用量 ・まちづくり局発注工事においては、熱帯材の使用を極力抑制するよう努めている。	<input type="checkbox"/> 引き続き実施

